



# みどりの東北

MIDORI no TOHOKU

平成21年3月

## No.60

発行／東北森林管理局  
秋田市中通五丁目9-16  
TEL.018(836)2191

<http://www.tohoku.kokuyurin.go.jp/>



### かむろさん 神室山 (標高1,365m)

神室山は、山形県の北東部、奥羽山脈中央部の西側に位置し、栗駒国定公園にあり、最高峰の小又山に次ぐ主峰の山で日本200名山にも選ばれております。

東北一のやせ尾根と言われる25キロに及ぶ連峰は、冬にはアルペン的な顔を見せ、東側の急斜面には美しいヒマラヤひだが刻まれます。

写真は八森山から神室連峰を望む

(写真提供：山形県新庄市 菅原富喜氏)

## トピック

### 特集

「国有林モニター会議を開催」

企画調整室

### 美しい森林づくり

「公有林整備の取り組み」

秋田県東成瀬村

### 我が署の隠れた名所

三陸北部森林管理署「櫃取湿原」



この印刷物は、E3PAのゴールドプラス基準に適合した地球環境にやさしい印刷方法で作成されています  
E3PA：環境保護印刷推進協議会  
<http://www.e3pa.com>



東北森林管理局では、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。



飛砂防備林造成箇所にて事業概要を説明



モニターの皆様の質問に答える由利署有馬さん

東北森林管理局では、国民の皆様  
の意見の適確な把握とそれらの  
意見を反映した管理経営の推進の  
ための取組の一つとして国有林モ  
ニター制度を設けています。  
今年度は、管内五県にお住まい  
の四十八名の方に国有林モニター

に就任していただいております。国有  
林の役割や現状についてのアンケ  
ートなどを通じてご意見をいた  
だいて参りました。  
こうした取組の一環として、三  
月六日、秋田県由利本荘市にお  
いて、十九名の国有林モニターの皆

特集コーナー

由利本荘市において  
国有林モニター会議開催

企画調整室



様に出席をいただき、国有林モニ  
ター会議を開催しました。  
今年度は、国有林モニターの皆  
様の「現地に行き、意見を伝えたい」とのご意見を踏まえ、初めて  
現地見学を国有林モニター会議に  
取り入れました。  
現地見学では、由利本荘市の田  
尻海岸の飛砂防備保安林におい  
て、由利森林管理署の職員から、  
海岸林の役割等についての説明を  
行い、保安林の防風効果を体験し  
ていただきました。あいにくの天  
候の中での現地見学でしたが、林  
齢や施業方法など皆様から多くの  
質問が出され、治山事業について  
の見識を深めていただきました。  
午後からは、由利本荘市内の会  
議場に場所を移し、会議を行いました。会議においては、東北森林  
管理局から今年度の取組概要につ  
いて説明を行った後、国有林モニ  
ターの皆様と東北森林管理局幹部  
の間で意見交換が行われました。  
東北森林管理局の取組について  
は、「国産材の需要拡大を図るた  
め、ハウスメーカーや他省庁と連  
携すべき」、「森林・林業のため  
は、若い親や子どもにどうやって  
山に入ってもらおうかが大切では  
ないか」、「学校の取組をもっと進  
めて欲しい」、「木の良さや山づく  
りの大切さは近いうち必ず見直さ  
れると思うので、もっと積極的に



PRして欲しい」、「うるしなど特  
用林産物についても配慮してほ  
しい」とのご意見をいただきました。  
東北森林管理局からは他省庁との  
連携について「美しい森林づくり  
国民運動等を通じ、他省庁と連携  
しながら取り組んでいるところで  
あり、今後も進めていく」、森林  
環境教育については「小学校五年  
生用の資料と指導用の資料を作成  
し、普及に取り組んでおり、今後  
も積極的に行っていく」との説明  
を行いました。  
国有林モニターや会議のあり方  
については、「国土交通省の開放  
講座の例なども参考に事業内容を  
住民に理解してもらうよう努める

べき」、「車中の説明が短いながらも、東北森林管理局全体の仕事の内容を推測できるいい説明だった」、「国有林モニタールになつて色々な資料が送付されてきたが、継続して情報を得たい」というご意見をいただきました。

いただいた意見については、来年度の業務に反映していけるよう検討を進めて参ります。

国有林モニタールの皆さまには一年間貴重なご意見をいただき誠にありがとうございました。今後東北森林管理局の活動を見守っていただき、ご意見をいただければ幸いです。

また国有林モニタールの皆様にお答えいただいた二回のアンケートについては東北森林管理局HPに公表しておりますので、ご覧ください。

[http://www.tohoku.kokuyurin.go.jp/02\\_work/03\\_kokuminsanka/01\\_monita/index.html](http://www.tohoku.kokuyurin.go.jp/02_work/03_kokuminsanka/01_monita/index.html)



特集コーナー

**平成20年度「森林・林業技術交流発表会」を開催**

指導普及課

最優秀賞は〈庄内森林管理署〉高梨 清美さんと  
 〈秋田県立大学〉品川 朋仁さんと  
 〈五所川原農林高等学校〉は優秀賞、〈竜森小学校〉へは特別賞

平成二十年度森林・林業技術交流発表会は、平成二十一年二月五日～六日の二日間、イヤタカ（秋田市・民間施設）において、三五〇名（二日間）の参加のもとに森林技術部門一六課題、森林ふれあい部門九課題、高等学校四課題、



立見が出るほどの参加があった発表会場

小学校一課題、特別発表四課題及び特別講演が行われました。

一般の部の森林技術部門では、「庄内海岸における砂草植物への施肥効果」と題し、庄内海岸における砂草植物への施肥の必要性について発表した庄内森林管理署の高梨清美さん、また、森林ふれあい部門については、「秋田県における森林体験イベントの現状と今後の展望」と題し、県民参加の森林づくりを促進する森林体験イベントに着目し、全体像の把握や参加者アンケートを行い、新規参加者の増加とリピーターの活動等について発表した秋田県立大学の品川朋仁さんがそれぞれ東北森林管理局長最優秀賞を受賞しました。

中学・高校の部は、青森県立五所川原農林高等学校が、「生物生態系の復元に向けて」と題し、外来種による日本在来生物への捕食による影響や地球温暖化が原因で



森林技術部門最優秀賞を受賞した庄内署高梨さん

生物に異変が見られることから、自然環境を復元する足がかり等について発表し、優秀賞を受賞しました。なお、小学校から参加した竜森小学校へは特別賞が贈られました。

また、（独）森林総合研究所東

**東北森林管理局**

**1階ロビーのご案内(3月)**

- ・ミニギャラリー  
刺しゅう、水墨画・ステンドグラス展  
秋田市 丸山日出雄  
三浦千津子
- ・PRコーナー  
レクリエーションの森について  
国有林野管理課



講評を述べる蒔田審査委員長

北支所等の研究機関による特別発表や、特別講演は、岩手・宮城内陸地震山地災害対策検討会座長で東北学院大学の宮城豊彦教授による「岩手宮城内陸地震で発生した大規模な土砂災害の実態とその多様な意味」と題して、東北地方の地形地質の概要と山地災害の特徴等についての講演が行われました。続いて各発表に対する講評が両部門の委員長からあり、特に蒔田委員長からは、今後さらにレベルアップを図るために、①調査・研究の全体像は何か、②発表の新しい視点、苦労した点はどこか、③データの取り方や調査区の設定を工夫するなどについてのアドバイ

## 【審査結果】

賞区分		発表課題名	発表機関	発表者
東北 森林 管理 局 長 賞	一般の 森林 技術 部門	最優秀賞	庄内海岸における砂草植物への施肥効果	庄内森林管理署 高梨 清美
		優秀賞	「100年先を見通した森林づくり」を目指して～造林地内に生育しているヒバの利用方法の検討について～	津軽森林管理署 金木支署 中里森林事務所 高橋 友和 外1名
			「股バンド」の着用による刈払機作業の安全性向上について	下北森林管理署 岸田 周 外1名
		奨励賞	多様性に富んだ海岸草地への転換をめざして～ハマニンニクとオオハマガヤの見分け方～	由利森林管理署 有馬 俊英
			岩大演習林における超高密度作業路網の構築	岩手大学農学部 麻生臣太郎 外1名
	森林 ふれ あい 部門	最優秀賞	秋田県における森林体験イベントの現状と今後への展望	秋田県立大学 品川 朋仁 外1名
		優秀賞	森林環境を生かした「いのちの教育」	山形県西置賜郡小国町 立白沼小中学校 倉持 宏幸
		奨励賞	高校生による木づかい運動の推進に向けた木育スクールの展開	秋田県由利地域振興局 千葉 智晴
	岩手・宮城内陸地震による山地災害への対応について		宮城北部森林管理署 花山森林事務所 齋藤 弘幸 外2名	
	中学・高等学校 の部	優秀賞	生物生態系の復元に向けて	青森県立五所川原農林 高等学校 乳井 翔 外2名
		奨励賞	林業の担い手を目指して～全国植樹祭から学んだこと～	秋田県立鷹巣農林高等 学校 小塚 大地 金田 直幸 外2名
			「林業系資格を活用した施工実習を試みて」	岩手県立盛岡農業高等 学校 原 拓真 藤原 祥鶴 外3名
「それでもあなたは飲みますか？」～スーパー植物を活用した水浄化に関する研究～			岩手県立盛岡農業高等 学校 清水 勝也 松坂 千秋 外5名	
特別賞	広げよう緑、心をつなぐ緑の活動	秋田県北秋田市立 竜森小学校 堀部 綾乃 武田 玲菜		
東北森林管理局林政記者クラブ賞		秋田県における森林体験イベントの現状と今後への展望	秋田県立大学 品川 朋仁 外1名	

## 公有林整備の取り組み

秋田県東成瀬村 産業建設課  
林政担当 主査 佐々木 年子喜

東成瀬村は秋田県南部にある栗駒山系に位置する村で、総面積二万三百五十七haのうち八十%を森林が占めています。そのため、豊かできれいな水の恩恵の多くを、国有林をはじめとした広大な森林から受けているとともに、それを守る役割を率先して担うべき村であるとも認識しております。そのため、村では毎年森林整備に必要な予算を十分に確保しながら計画



東成瀬村の風景

的な整備を行ってきておりますが、中でも事業規模が大きい「公有林の整備」について紹介したいと思います。

### 水源地の環境保全を重視した造林への移行

村では、四十年以上も前から公有林（村直営林）としてのスギ単層林の整備を継続的に行ってきた。現在では木材価格が低迷していることから、単に経済性だけを目的とした造林は行いにくくなっているのが現状ですが、木材生産の収益面よりはむしろ水源地の環境保全といった政策的な側面を重視し、国県補助事業（森林環境

保全整備事業）を有効に活用しながら無理のない形で新規造林を行っています。さらに、作業路網の整備と併せながら保育（下刈・枝打ち・除間伐）も計画的に実施し、水源地としての機能を効果的に発揮できるような森林整備に村が率先して力を入れております。



公有林（スギ林）の下刈作業

### 広葉樹の植栽への取り組み

また、平成九年度からは、森林の持つ多面的機能をより大きく発揮すると言われている広葉樹（ブナ）の新規植栽にも取り組んでおり、平成二十年度までに合計八・三七haを整備しております。また、それと併せて村内小学校児童を対象とした森林教室（植栽や保育活動体験）を継続的に開催しており、



ブナ植栽体験教室

今や村における公有林の整備は、森林の持つ多面的機能の大切さを学ぶ場を提供するという位置づけにもなっております。  
森林整備は、その成果が直ちに、そして目に見える形では現れにくい分野の一つであります。村が力を入れているこの取り組みが正しい方向性であることは、将来必ず証明されることと思いません。そのため、今後も公有林整備を中心とした森林整備に継続的に取り組むことで、村民が皆「わが東成瀬村は水源地を守る大切な役割を担うすばらしい村です」と堂々と胸を張って言えるような村づくりをしたいものと考えています。

## 松尾鉦山跡地「森の再生活動」

盛岡森林管理署

秋田県境に近い八幡平の中腹部に位置する松尾鉦山跡地（八幡平市）は、かつては東洋の硫黄鉱山として賑わい、「雲上の樂園」と呼ばれていましたが、石油精製による安価な硫黄に押されて昭和四十七年に閉山しました。付近一帯の森林（国有林）は、硫酸製造時の煙害や露天掘り、採掘後の土捨て

等によって、著しく衰退・消滅していました。岩手県等は、公害対策の一環として昭和五十年代から二十年以上に渡って客土や草本種子の吹きつけ等の緑化対策を講じてきましたが、草原の中に木本類が点状に見られる程度で、かつての森の再生にはほど遠い状況でした。



再生活動の参加者

平成に入ってから、民間企業や団体等によって植栽試験が行われるようになりました。特に（社）東北地域環境計画研究会が平成十四年から始めた「森の再生活動」は、十七年度以降、一般公募の市民参加による年二回の緑化活動と

して定着し、これまで七年間で延べ約千八百人が参加し、ダケカンバ、ミヤマハンノキ、アキグミ等の郷土樹種約七千五百本を植栽しました。

森の再生活動がマスコミで取り上げられたこともあり、参加したいとの要望が多く寄せられるようになりました。その受け皿として、平成二十年二月に森の再生活動に取り組む三団体が「松尾鉦山跡地再生の森協議会」を立ち上げ、五月には、協議会と岩手県と当署の三者間で遊々の森の協定を締結しました。



協定書に署名する関係者

松尾鉦山跡地は、極端に寒冷な気候と栄養分の乏しい客土のた

め、植栽に当たっては黒土を盛って郷土樹種を混植・密植し防風垣を設置する等の工夫を凝らす必要があります。

協議会では、この植栽方法の改良や統一ルールづくりに取り組むとともに、参加希望団体等に対して、活動場所の提供や植栽方法の指導等を行っています。

遊々の森協定を締結以降、海藻やカキ殻を用いた土壌改良と植樹に取り組む団体が現れるなど、協議会を核とした「森の再生活動」の輪は確実に広がっており、当署としても協力支援を進めていきたいと考えています。



親子で植栽（手前はリサイクル紙苗鉢）

このブナ林に安比二酸化炭素動態観測試験地を設定しています。近年、大気中二酸化炭素濃度の上昇



写真-1 安比高原ブナ二次林の様子

岩手県八幡平市の安比高原には美しいブナの二次林が広がっており、その四季折々の姿は多くの人々を楽しませてくれます（写真1）。森林総合研究所東北支所では、東北森林管理局との共同で、

【森のお話】

…コラム…

## 森林の二酸化炭素吸収・放出量を測る

森林総合研究所 東北支所

森林環境研究グループ

安田 幸生

は森林上に吹く風の動きとそのなかの二酸化炭素濃度の変動を測定し、森林と大気との間の二酸化炭素交換量を測定するものです。観

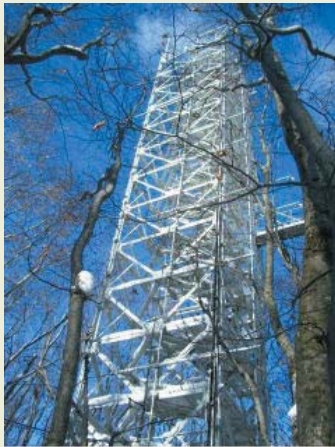


写真-2 林内に設置された観測塔

に伴う地球温暖化が懸念されており、二酸化炭素の吸収源となり得る森林の役割が注目されています。こうした背景から、この試験地ではさまざまな観測を通じて、森林の二酸化炭素吸収量や貯留量の把握に努めています。観測の一つに「COフラックス観測」というものがあります。これ

測のための測定機器は森林上に設置する必要があります。大きな観測塔を用いた大がかりな観測となります（写真2）。二酸化炭素「交換量」の測定と書きましたが、これは森林が二酸化炭素を吸収しながら、放出もしていることを意味しています。森林を生態系全体としてとらえると、二酸化炭素を吸収しているのは樹木などの葉のみで、その他の樹木部位や森林土壌は二酸化炭素を放出しています。吸収量と放出量の差（交換量あるいは収支量）を見て、吸収量が上回っている場合に、その森林生態系は二酸化炭素を吸収しているといえるのです。

図1にCOフラックス観測で得られる結果の例を示します（二〇〇六年七月五日の観測例）。二酸化炭素交換量はプラス値のときは吸収を、マイナス値のときは放出を表します。図1には日射量の日変化も合わせて示しました。昼間、太陽の光が降り注ぐと、葉は光合成を行い、二酸化炭素を吸収します。図より、日射量が大きくなると二酸化炭素吸収量が増加する様子が見て取れます。二酸化炭素吸収量が放出を上回るとプラスの値になりますので、この日、ブナ林は昼間に二酸化炭素を吸収して

測を行っており、森林の二酸化炭素吸収・放出量の調査を継続しています。気候帯や森林タイプによる吸収特性の違いなどを明らかにしていきたいと考えています。

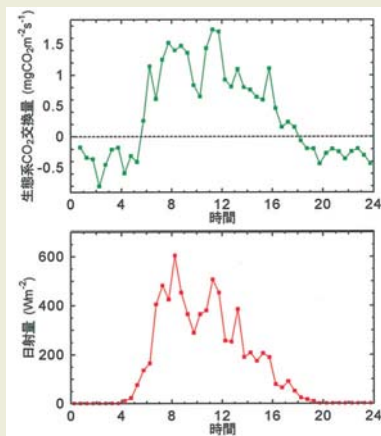


図-1 生態系二酸化炭素交換量（上図）と日射量（下図）の日変化の様子（2006年7月5日の観測例）

いたことがわかります。では、夜間はどうかでしょうか。夜間は日射がなくなるので、葉は光合成を行えません。このため森林からは二酸化炭素が放出されるので、マイナス値を示します。一日全体の二酸化炭素吸収を考える場合には、この昼間の吸収量と夜間の放出量を考えなければなりません。そしてこのような観測を年間続けることで、年間の二酸化炭素吸収量を算出することができます。

森林総合研究所では安比高原ブナ二次林のほか、全国四カ所（北海道・九州）において、同様の観



下北森林管理署

下北森林管理署  
モニター製品現場見学

二月六日、今年度発足させた当署モニター（二みどりの東北No.52）に掲載）四名を対象とした本年度三回目の国有林見学会を実施しました。

今回は青森ヒバの択伐の製品生産請負箇所における山元土場のみの見学としました。枝に積もった雪で



製品生産請負箇所で行われた見学会

木々が白く輝く中で、トラックターにより全幹で先山より搬出されてくるヒバの大量や、グリップで丸太を集積している様子

は参加者にとって初めて見る物ばかり、氷点下にもかかわらず一時間以上も興味深く見入ってしまうほどでした。その間、業務第二課長が択伐施業や製品生産、委託販売やトラクター集材に伴う水質保全対策等の説明を行い、国有林野事業の取組について理解を深めていただきました。



熱心に説明を聞くモニター

モニターの方からは「下北署の段行くことのできない箇所の見学や説明で、国有林野事業の様々な取組の実態を知ることができて大変良かった」と感謝の言葉をいただいた一方で、「伐倒作業についても見たかった」という要望もいただきました。

来年度はこれらの意見を活かした計画を立て、更に国有林野事業を深く理解していただける様、更に工夫と努力をしていきたいと思

三陸北部森林管理署

当署地域発案システムの取組状況

当署における今年度の地域発案システムは、「三陸カラマツの生産体制の高度化及び流通体制基盤の確立」をテーマとして進めているところとあります。このテーマを取り上げた背景は、木材が高かった時代の旧態依然とした生産・流通体制のため、各コストが高止まりの傾向にある状況からです。

この取組の第一回目として、昨秋の十月に岩泉町内の国有林において、岩手県内の林業関係者等（八十二名）が一堂に会し「列状間伐及び低コスト作業路現地検討会」を東北森林管理局並びに青森事務所と共催で実施したところとあります。

今般は第二回目の取組として、昨年十二月十七日に県有林及び国有林の造林・生産請負事業体を対象（四十二名）に「県有林事業現地研修会」を岩手県宮古地方振興局林務部に開催していただいたところとあります。

開催当日は、穏やかな天候にも恵まれて、同振興局林務部の石井森林保全課長から「県有林事業を紹介するので、きたんのないご意見を期待する。」旨の開会のあいさつの後、川井村の県行造林箇所のカラマツ立木皆伐箇所にお

て、県有林の種類別、立木処分方法、立木の採材、販売先などの説明等を受けました。

午後には会場を宮古市新里の間伐箇所に移し、県有林の施業方法や間伐方法等について研修を受けました。

研修の閉会に当たって、高野三陸北部森林管理署長から「地元には、大きな集材工場等があることから地の利を活かした地域関係者の創意工夫により林業の活性化に努めていきたい。」等の言葉で散会しました。参加者からは、「県有林施業の実態が分かり有意義な研修会であった。」との感想が聞かれました。

なお、このテーマの最終の取組として次回は、このテーマに係わるセミナーを予定しています。



現場での研修の様子



# “天然秋田杉と県境の魅力”

米代東部森林管理署 矢立森林事務所

菅原 聖子

秋田県の代表的な民謡である秋田音頭に名物として「大館曲げわっぱ」が謡われています。大館曲げわっぱは、千年以上の伝統があり、きこりが杉柁で曲物の器を作ったことに始まったとされています。

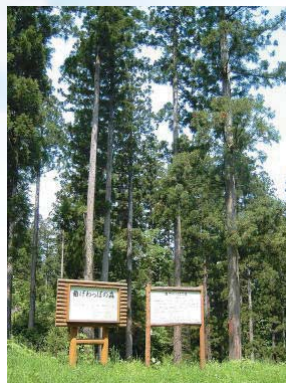
製法は、木曽のヒノキ・青森ヒバと並ぶ日本三大美林の一つ天然秋田杉を薄く柁目取りし、煮沸して曲げ輪を作り、桜の樹皮で縫い止めるなどして完成します。特徴としては、天然秋田杉の柁目と香りが冴え、木目まっすぐで弾力に富んでいます。軽さと、明るく優美な木目が活かされた製品には様々なデザインあり、シンプルな味わいと気品があり、現在の本物志向の風潮に相まって、修理しながら長期にわたり使用できることから多くの人に愛用されています。しかし、曲げわっぱの



原料である天然秋田杉の供給量は年々減少しており、ポスト天然秋田杉として

高齢級スギ人工林を将来にわたり持続的に供給するため、地域の伝統産業振興と木の文化の継承に貢献する普及啓発、森林環境教育への活用を含めた森林づくり活動を行うために設定された「曲げわっぱの森」が管内にあります。

また、秋田・青森県境の国道7号線沿いには、かつて美林地帯として有名だった矢立峠があります。矢立峠は、主要街道のひとつ旧奥州街道が通り、津軽へ通じる交通の要衝であり、難所でもありました。昭和43年に、国道の両側を「風致保護林」に指定して禁伐としていましたが、昭和47年には「レクリエーションの森」のひとつ風景林に区分され、当署管内に11箇所あるうちのひとつ「矢立峠風景林」に指定されています。この矢立峠風景林



に隣接した「道の駅やたて峠」が平成8年に共用開始されたことにより、駐車場、公衆トイレが整備され、利便性が高まっています。なお、平成9年度には、林野庁と厚生労働省が

共同で全国35箇所に選定した「やすらぎの森」の一つとなっています。

矢立峠風景林内には遊歩道があり、ボランティアの方々により整備されています。この遊歩道は、明治以前の歴史の道でもあり「道の駅やたて峠」を起点とする総延長約21kmの周回コースは周辺の温泉施設の利用者や小・中学生等の野外学習、散策コースとして親しまれています。年に数回「峠の散策会」が行われ、市内外から多くの人々が参加しています。各コースによって林層に違いがあり、約30分で軽装でも散策できる広葉樹から天然秋田杉まで観察できる最短コースに人気があります。

私は、初めて矢立歩道を歩いた時に「天然秋田杉」の素晴らしさに驚き、その後、矢立歩道を歩く度に新しい発見があります。これからは、多くの人に天然秋田杉の素晴らしさを伝えたいと思います。冬期間は、残念ながら道の駅からの遠望だけではありますが、春の新緑頃が私のお薦めです。



# 我が署の 隠れた名所

三陸北部森林管理署

## ひっ とり しつ げん 「櫃取湿原」

### (見所の概要)

岩手県下閉伊郡岩泉町釜津田の国有林内に広がる櫃取湿原は、早池峰山の北側にある青松葉山や高森などの峰々に囲まれた標高1000メートル前後の平坦地にある湿原で、周りを囲むように広葉樹林が広がり、北上高地の数少ない湿原地の中で最も美しい場所とされています。

この湿原の全域がすべて国有林で、植物群落保護林に指定され、岩手県の自然環境保全地域にも指定されていることから、この地域内での動植物の採取が厳しく禁止されています。

天然イワナの宝庫として知られる大川溪流の源流域にある貴重な湿原で、美しい自然が大切に残されています。昭和58年には「21世紀に残したい日本の自然100選」に選ばれ、春まだ浅い頃、樹齢100年を超えるブナやミズナラ、ダケカンバの林の向こうにひっそりとミズバショウが白い花を咲かせます。灰色の樹木とその根元に点在するミズバショウのコントラストはヨーロッパの森を思わせるたたずまいです。

この湿原では、4月下旬から8月下旬の時期に多数の花が咲きます。特に5月頃のミズバショウと7月頃のハクサンシャクナゲは、とても綺麗で、散策や写真

撮影に訪れる方が増えています。

勿論、花の他にも春の新緑から秋の紅葉までいつ訪れても素晴らしい風景が目一杯に広がっています。



ハクサンシャクナゲ

### 交通アクセス

- ・東北自動車道盛岡南インターチェンジから車で約80分。
- ・JR山田線で盛岡駅から約60分の松草駅下車、タクシーで約20分。
- ※11月下旬から翌4月中旬までは、積雪のため通行止めです。



### お問い合わせ先

〒027-0022 岩手県宮古市磯鶏石崎4-6  
電話番号：050-3160-5900 FAX：0193-63-4872